意見交換会の開催結果について

令和7年6月4日、7日、8日に森孝西小、本地丘小、森孝東小において、森孝中ブロックの児童生徒と未就学児の保護者の方を対象とした「本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の統合及び森孝中学校との併設(案)」に関する意見交換会を開催し、51名の方にご参加をいただきました。意見交換会でいただいた主なご意見等とそれに対する教育委員会の考え方をまとめました。より詳しい内容は市公式ウェブサイトをご覧ください。なお、ご意見等について、内容をまとめさせていただき作成しております。

本地丘小・森孝東小・森孝西小における取り組みのウェブサイト
(ご意見に対する考え方の詳細を掲載しています。)
https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/11-10-5-5-4-5-0-0-0-0.html

【統合の考え方について】

Q　3つの小学校と中学校を、現在の中学校の場所に併設校として建設することとなっていますが、小学校と中学校を同じ場所に建設する必要性が分かりません。

A　今回の統合案は、子どもたちの学校生活への影響を考え、小学校を統合して望ましい学校規模にすることを目的としています。その統合する場所については、本市の通学距離の基準として、小学校では2km 以内で、全ての学区の子どもたちにとって、通学の負担が偏らないことが重要だと考えています。そのうえで最も適当な場所が、全ての学区の概ね中央に位置する森孝中学校であり、その場所で併設校の整備を行いたいと考えています。

Q　統合案では森孝東小学校の子どもだけが環境の変化による負担が大きいのではないでしょうか。また、中学校の生徒のことを優先して考えているのではないでしょうか。

A　新校舎建設中の小学校(東校舎)については、本地丘小学校と森孝東小学校のどちらの場所でも教育活動を支障なく行えるものと考えています。中学校については、体育の授業や部活動を行うことを想定した場合に、本地丘小学校の運動場は森孝東小学校の運動場より狭いため、教育活動への支障がより大きくなると考えましたので、森孝東小学校の場所へ森孝中学校を仮移転する方がよいと考えています。

Q　当初から、サブグラウンドが無いと、森孝中学校の敷地では小中学校の併設校として運動場が狭いと想定していたのでしょうか。

A　当初の計画案では、小中学校の併設校は森孝中学校の敷地だけで教育活動が可能であると考えていました。計画案をお示しする中で、地域の方や学校現場等から運動場の広さについて不十分ではないかという心配の声を伺っていました。そこで、授業後の中学校部活動を中心として、より充実した活動が見込めることを勘案し、森孝東小学校の運動場をサブグラウンドとする計画案とさせていただきました。

Q　小規模校のメリットとして、職員の目が届きやすいとあります。人間関係でトラブルがあった時こそ、職員の目が届く小規模校のままの方がよいのではないでしょうか。

A　統合した場合でも1学級の人数の上限は決まっていますので、教職員の目が届かないことはないと考えています。一方、小規模校ではクラス替えができないことで人間関係が固定化してしまうことになり、多くの人や様々な考えと出会える機会が限られてしまい、また、トラブルがあった場合に嫌な気持ちを抱いたまま我慢させてしまう可能性があります。教育委員会としましては、これらの課題の解消に向けて適正規模の学校となるように統合を進めていきたいと考えています。

【小中学校の併設・施設について】

Q　小中学校が併設校となった場合、小学１年生と中学3年生では体格差がかなりあると思います。一緒に生活するときに安全面等は大丈夫なのでしょうか。

A　校舎の配置を工夫して教室は階層別に小学生は低層、中学生を高層に分ける、昇降口を小中で別々にするなどし、併設校での日常生

活が安全に過ごせるよう対応してまいります。ご意見をいただいたことを受けて、リスクを減らすとともに、互いが同じ空間で生活することへの安全について引き続き研究し、新しい学校に生かしていきたいと考えています。

【通学について】

Q　森孝中学校の場所に小中学校の併設校が建設されることを考えると、通学距離が長くなり、小学1年生の子どもにとって安全に登下校ができるのか不安があります。昨今の夏の暑さ等を考えると本当に心配です。

A　これまでの統合校の熱中症対策としては、日傘、首を冷やすグッズ、スポーツドリングの携帯を認める等の対応をしており、下校時には水筒の中身が無くなっている場合には水分の補給を徹底しています。また、熱中症対策として通学支援員を新たに配置し、通学に慣れるまでの一定期間、一番遠い分団の子どもたちと一緒に登校する等の対応をしています。

【小学校統合校での生活について】

Q　西校舎と東校舎に分かれているときに、学校行事は一緒に行う予定でしょうか。新校舎が完成した時に、東校舎と西校舎の子どもがスムーズに生活に慣れるような配慮をお願いします。

A　統合校として東校舎と西校舎に分かれている時もひとつの小学校となります。例えば、作品展や修学旅行、遠足などの行事を東校舎と西校舎の子どもたちが一緒に行うなど様々な行事で交流を重ねていき、新校舎完成時にも生活にスムーズに慣れるような配慮を行っていきたいと考えています。

Q　統合に伴って子どもたちの生活環境に大きな変化があることによって、友達づくりをはじめとして、心に負担が掛かることを心配しています。子どもたちの心のケアについて教えてください。

A　これまでの統合校では、統合前の段階でスクールカウンセラーによる「友達づくりの工夫」についての授業を行い、子どもたちの不安を少なくするような取り組みを行っています。統合校が開校した際には、スクールカウンセラーを増員し、子どもたちが相談しやすい体制とすることを考えています。

【意見交換会の進め方について】

Q　未就学児の保護者向けの意見交換会は今回が初めてでした。これまでその意見を聞かずに進めている点に疑問を感じています。未就学児が学校統合による移行期間に最も影響があると思いますので、今後のスケジュールをはじめとした案の練り直しを含めて、再度意見交換会を開催してほしいです。

A　今回お示ししたスケジュール案は、この統合案が皆様に一定程度ご理解いただき、スムーズに進んだ場合を想定したものです。今回いただいたご意見を踏まえながら改めて教育委員会としてどのようにしていくか検討したいと考えています。今回の計画に最も影響がある未就学児の保護者の方を対象とした意見交換会をこれまで開催せず、計画案をお示しできなかったことについては大変申し訳ありません。再度の意見交換会の開催についてはご要望として承ります。

【その他】

Q　小規模校の学校になると、当然、教職員の数が少なくなると思います。しかし、学校の規模に関わらず学校の仕事が減るとは思えませんが、小規模校の教職員の負担はどのような状況でしょうか。

A　校務分掌（学校の仕事）は学校規模の大小にかかわらず同じようにあります。小規模校では、一人あたりの校務や行事に関わる負担が大きくなる傾向が見られます。例えば、学年に複数の学級がある場合は、同じ学年の担任同士で、授業や行事の内容を相談したり、準備を分担したりすることができます。一方で単学級の場合には、すべてのことを一人で考え、準備を分担することもできないので小規模校の教職員の負担の方が大きいと捉えています。

統合（案）などについて、ご意見等ありましたら、下記までご連絡ください。

名古屋市教育委員会　教育環境整備課
電話 052-972-3282
ファックス 052-972-4176
E-mail:a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

今回の意見交換会でのご意見等を踏まえて10月に意見交換会の開催を予定しております。日程などが決まりましたらお知らせしますのでよろしくお願いいたします。